



① 35年以上変わらない包装紙。一目で森田園のお茶とわかる。②大人気の狭山茶チョコレート。お茶の香りとチョコの甘味が絶妙の口どけで、まとめ買いをする人も。③守り続けられる品質は、初代から続いている。④お茶のパッケージも「狭山茶 森田園」のみというシンプルなスタイル。陳列される商品数も厳選されたものだけ。⑤落ち着いた店舗内で取材に応じた昌也さん。

笑顔でお客さんを出迎えてくれる森田園の皆さん。シンプルな店内は落ち着いた雰囲気。陳列している商品も厳選されたものだけ。森田さんのこだわりが写真からも伝わります。

藤 久保交差点を西に向かうと元気な子どもたちの声が聞こえる三芳小学校手前の交差点のそばにある「森田園」の看板。お店に入るとまず感じるのとはとてもシンプルで、温かみのある雰囲気だということ。「いらっしやいませ」と声をかけるのは店主の森田昌也さん(50)。三芳町茶業研究会の会長を務めています。

「約100年前に創業し、私が3代目。現在は私と母、母の義妹の3人でお店を回しています」と言う昌也さん。次男ということもあり、当初は農家を継ぐことは考えず30歳までは会社員として働いていました。「農家としては遅咲きですよね。しかし品評会では何度も入賞を果たす実力派の昌也さん。そこにたどり着くには紆余曲折があったと言います。

「もともと農家になることに乗り気ではなく、やる気もなくてただお茶が作ればいいと思っていたんです」そうした時、転機が訪れます。「お茶作りの先輩が『おまえがちゃんとしな

なら、もう付き合いはやめる』と言ひ、突き放されたんです。はたから見ても気がゆるんでいたんでしようね。そこから一念発起して、お茶作りに真剣に取り組みました。いろいろと試行錯誤し、先代の教えを守りつつも自分の感性を取り入れ努力を続けていくうちに、少しずつめざすお茶が作れるようになっていきました。

「次第に結果も伴いはじめ、お茶作りにやりがいを感じるようになっていきました。お茶作りはずっと勉強ですが、手間ひまをかけ、丁寧に製造することを中心にかけています。こだわりは「狭山茶の特徴である強い火入れ香と甘味のある深い味わい」といいます。

香りのほかに「シンプルである」ことにこだわります。「お茶のパッケージやショーケースに陳列している商品数も少なうてシンプルにしています。雰囲気をお店に大切にし、お茶作りも綺麗に丁寧に扱うことに気を使っています」とこだわりを話します。

森田園の包装紙は35年前から変わっていません。「文字が入っているだけのとてもシンプルなものですが、『森田園さんのお茶だ』



三芳小学校の交差点のすぐ近くにある森田園。落ち着いた外観が印象的です。



無駄を省き、シンプルを心がけ、地域に根付いたお茶作り
お茶とは、繋がりをを感じるもの。

子どもたちの元気な声が響く三芳小学校交差点。そのすぐ近くにある森田園。店主の三芳町茶業研究会会長の森田昌也さんにお話しを伺いました。

【DATE】 森田園：北永井 627 ☎ 049-258-3855